雪印種苗株式会社 千葉研究農場 牧草・飼料作物研究Ⅱグループ 中野 敬護 雪印種苗株式会社 宮崎研究農場 石井 健大郎

イタリアンライグラスとムギ類の混播利 用方法

1. はじめに

イタリアンライグラスは、関東以西を中心に夏作のトウモロコシと組み合わせた二毛作や水田の裏作として広く利用される牧草です。栽培しやすく、多収で、栄養価や嗜好性の高い牧草として高く評価されています。一方、秋・冬作飼料作物でイタリアンライグラスに次いで利用が多いのが飼料用ムギ類であり、弊社ではエンバク、オオムギ、ライムギ、ライコムギと様々なムギ類を扱っております。一般的には耐湿性や嗜好性、乾きの早さでイタリアンライグラスが優れ、耐寒性や収量性、播種期の幅の広さではムギ類が優れます。

イタリアンライグラスと飼料用ムギ類は混播で利用されることも多いです。混播の利点としては、イタリアンライグラスの単播と比較して収量性の向上、水分含量の低下による予乾時間の短縮、倒伏の軽減などが挙げられます。ここでは、代表的なイタリアンライグラスとムギ類の混播栽培をご紹介します。

2. イタリアンライグラスとムギ類の混播 栽培

(1) 晩夏播きでの混播栽培

まずご紹介するのが晩夏播きでの混播栽培です。 晩夏播き用の極早生エンバクやオオムギにイタリア ンライグラスを混播することで、一度の播種で年内 にムギを収穫し、春にイタリアンライグラスの再生 草を収穫する省力的な栽培方法です。イタリアンラ イグラスにとっては、年内はムギが入ることで増収 になりますし、水田裏作などで年によって湿害によ るムギ類の減収が心配される場所でも、湿害に強い イタリアンライグラスが入ることによって減収を回 避できます。

混播の場合、ムギ類の方が生育が早いため、播種量が多いとイタリアンライグラスを被圧してしまい再生しなくなるので注意してください。ムギ類の播

種量は3~4kg/10aが良いでしょう。イタリアンライグラスも標準の3~4kg/10aとします。また、関東以西では、あまり暑い時期に早くイタリアンライグラスを播くと、いもち病が発生して立ち枯れすることがありますので、播種は暑さが和らぐ西日本では9月中旬以降、関東では9月上旬と遅めにした方が良いでしょう。イタリアンライグラスは春の収穫時期や次作の播種時期に応じ、早生~中晩生品種をお選びください。組み合わせるムギ類としては、極早生エンバクのスーパーハヤテ隼、ウルトラハヤテ韋駄天、スナイパー、あるいはオオムギのワセドリ2条が適します。オオムギはエンバクと比べると湿害や酸性土壌に弱いため必要に応じて排水対策や土壌改良を行いましょう。

(2) 秋播きでの混播栽培

秋播き利用での混播栽培の利点は、混播による増 収効果、予乾期間の短縮、またイタリアンライグラ スの播種適期を逃した際の冬枯れの予防対策といっ たことが挙げられます。混播の例としては、ワセド リ2条やムサシボウといったオオムギとの混播が挙 げられます。混播することによってどちらの単播よ りも多収になり、倒伏の軽減効果も見込めます。イ タリアンライグラスは3kg/10aを目安に、ワセド リ2条利用の場合は3kg/10a、ムサシボウ利用の 場合は2kg/10aを目安にご利用ください。排水対 策を行った水田裏作や転換畑などのやや湿害が気に なる畑では、オオムギより耐湿性の高いエンバクを ご利用ください。エンバクの中でも韋駄天は耐寒性 にも優れ秋播き利用に適しています。播種量はイタ リアンライグラスが3kg/10a程度に対し、韋駄天 を $3 \sim 4 \, \text{kg}/10 \, \text{a}$ を目安にご利用ください。

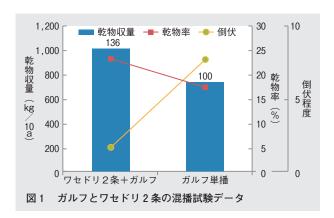
3. 研究農場での混播事例紹介

(1) 秋播きでのオオムギとイタリアンライグラス の混播

弊社、宮崎研究農場で行ったオオムギとイタリア



写真1 ガルフとワセドリ2条の混播



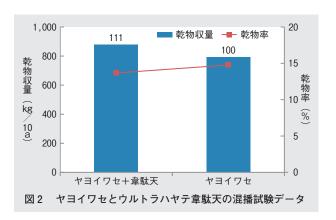
ンライグラス混播試験の結果をご紹介します。混播 区はオオムギにワセドリ2条、イタリアンライグラ スにガルフを用い、イタリアンライグラス単播との 比較を行いました(写真1)。11月15日に播種を行 い、4月12日に刈取りを行っています。試験結果は 図1の通りで、ワセドリ2条・ガルフ混播区はガル フ単播区に比べて乾物収量が36%高く、倒伏の被害 も抑えられていることが確認できました。また、乾 物率の高いオオムギが入ることにより全体の乾物率 も増加しました。

(2) 夏播きでのエンバクとイタリアンライグラス の混播

弊社、千葉研究農場で行ったエンバク・イタリア ンライグラス混播試験の結果をご紹介します。混播 区はエンバクにウルトラハヤテ韋駄天、イタリアン



写真 2 ヤヨイワセとウルトラハヤテ韋駄天の混播



ライグラスにヤヨイワセを用い、イタリアンライグラス単播区との比較を行いました(**写真2**)。9月17日に播種を行い、ヤヨイワセの出穂に達した12月15日に刈取りを行っています。試験結果は**図2**の通りで、ヤヨイワセ・ウルトラハヤテ韋駄天混播区はヤヨイワセ単播区に比べて乾物収量が11%高いことが確認できます。乾物率は混播区の方が数値は低いものの、大きな差はありませんでした。

4. おわりに

ここまでご紹介してきましたように、イタリアンライグラスとムギ類の混播には様々なメリットがあり、皆様の安定した自給飼料生産にお役立ていただけると思います。不明な点などございましたらお気軽に最寄りの営業所または研究農場までお問い合わせください。